

平和

平和、戦争を、
平和の尊さを、
忘れない

69年前の8月、広島・長崎には原子爆弾が落とされ、日本は終戦を迎えました。町内でも戦争にまつわる様々な行事が行われました。8月6日の原爆記念日に、全小中学校が一齐に「平和学習」を行い、平和の尊さ、戦争の悲惨さについて学びました。

椎田中学校では、生徒会が中心となって、平和集会を開催しました。



▲築上町戦没者追悼式

生徒会長の末君より「戦争は人権を侵害します。戦争を知らない私達には、広島や長崎で起こったことを忘れずに伝えて行く義務があります。今何ができるか一人一人が考えて欲しいです。それが私達にできることです。」と述べ、生徒会と生活人権委員が「原爆投下の話」の朗読を行い、当時の様子を伝えました。

最後に、生活人権委員長より平和宣言を発表。「私達は



▲生徒会と生活人権委員による朗読

戦争を経験していないが、何があつたかを正しく知り、共感することはできる。思いやりを持ち、仲間を大切にすれば戦争は起こりません。平和の尊さについて考え、自分自身や仲間を大切にするために行動しましょう。」と挨拶をしました。生徒達は、平和の尊さを心から感じた様子でした。

また、8月7日には中央公民館で戦没者追悼式が行われました。これは、先の大戦において亡くなられた築上町の方々の生前をしのび、その死を悼み、恒久平和を祈念するため、毎年行われています。出席者は戦火に倒れた方々に黙祷を捧げ、戦争のない未来を祈りました。

戦争を知らない世代が社会を担うようになった今、私達にできることは当たり前のように

うに存在する「平和」の根底には、過去の悲惨な出来事や先人たちの悲しみ、そして、努力の積み重ねがあるのだというのを、後世に確実に語りついでいかねばなりません。平和への祈りをつなげていきましょう。



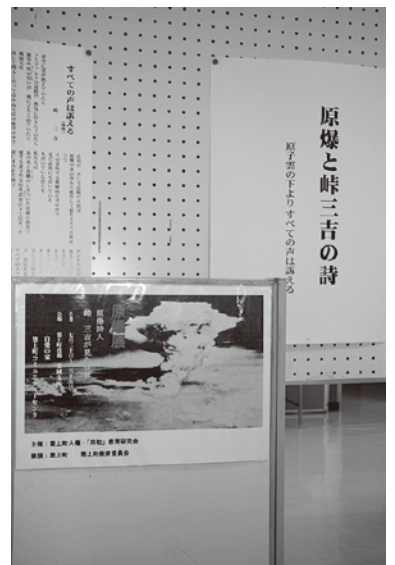
▲生徒会長の挨拶



▲平和集会（椎田中学校）



▲築上町戦没者追悼式（8月7日）



▲原爆展